
いわき版

骨太の方針

2025 ▶ 2026

本方針は、本市が抱える中長期的な課題について、解決に向けた方向性や道筋を取りまとめ、早い段階で市民の皆様に公表・共有することを目的に作成しているものです。

[「国際防災都市いわき」の実現を目指して]



防災を軸に、医療・教育・産業などが一体となった総合的なレジリエンス（回復力・強靭性）の高いまちづくりを進め、



“災害に強く、希望にあふれるまち”をつくります。

いわき市は、1000年に一度ともいわれる規模の東日本大震災を経験。その後も、令和元年東日本台風、令和5年台風第13号（線状降水帯）と、度重なる災害を経験しました。



そのたびに、さまざまな困難を乗り越え、より強くしなやかな地域へ成長するため、**レジリエンスを高めてきました。**



この経験を踏まえ、誰もが安全・安心で、心豊かな暮らしを実現し、**幸福度の高いウェルビーイングなまちづくり**を推進するため、東日本大震災の教訓を胸に**「世界に誇れる国際防災都市」**を目指します。



実現に向けた「いわきの強み」



01 様々な災害を乗り越えてきた知見

平成23年の東日本大震災および原発事故、令和元年東日本台風、令和5年台風第13号（線状降水帯）と、度重なる災害を乗り越えてきた経験と知見を有している。

R6しあわせ調査では「自然災害（防災対策がしっかりしている）」の主観指標が偏差値50以上が高い



02 市民・地域の「共助の力」

地震・津波・豪雨・原子力災害など様々な災害を経験したことで、地域コミュニティや自主防災組織などが活発で、災害時に支え合う意識が醸成されている。



03 産学官の連携基盤

市内には、防災や減災に強みを持つ企業など様々な分野の企業が立地していることに加え、産業支援機関や高等教育機関、市外の大学等と連携し、技術開発や人材育成を支える体制が構築されている。

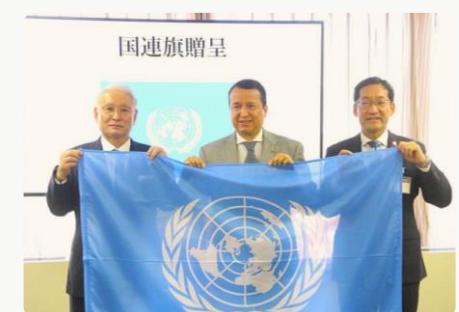
市内経済団体、いわき産学官ネットワーク協会、福島高専、東京大学先端科学技術研究センター等との連携



04 國際交流や教育機関連携のポテンシャル

海外との交流基盤を持ち、地元高専や大学をはじめ、国連ユニタール「CIFAL ジャパン国際研修センター」やF-REIなどの市内外の教育・研究機関とも連携し、防災・減災に関する教育・研究体制の強化に取り組んでいる。

CIFALジャパン国際研修センター、F-REI、東日本国際大学等との連携



【参考】R6しあわせ調査 主観と客觀 SWOT分析を用いた分類



実現により「期待される効果」



安全・安心の向上



災害に強いインフラ整備や防災教育の充実により災害対応力が高まり、自然災害時でも迅速な避難と復旧が可能となため、命と暮らしを守る安心感が向上します。

地域経済の活性化と雇用の創出



防災・レジリエンス関連産業や研究機関の集積、国際交流による新たなビジネスチャンスが生まれ、地域経済の活性化や雇用の創出につながります。

暮らしやすい都市環境の形成



防災まちづくりを通じて、誰もが利用しやすい公共空間を整備することにより、平時にも快適で利便性の高い都市環境が整い、誰もが暮らしやすいまちとなります。

地域の誇りと国際的な評価の向上



防災の先進都市として国内外に発信することにより、市民の皆様が自分のまちに誇りを持てるとともに、国際的な交流・協力の機会が増加します。

「国際防災都市いわき」の実現を目指し、人づくりをすべての底流に据え、
令和8年度は、次の3つの視点でまちづくりを進めていきます。

国際防災都市いわき

医療・教育・産業など、総合的なレジリエンスを強化

01

安全

に暮らせるまちづくり

防災レジリエンス

02

安心

して暮らせるまちづくり

社会的レジリエンス

03

豊か

に暮らせるまちづくり

経済的レジリエンス

人づくり

[01 安全に暮らせるまちづくり]

市民の安全や防災に関する意識が高く、平時から備えが万全な地域社会で、
自然災害に強く、誰もが命と暮らしを守れるまち

◆ 防災庁の誘致

- ・ 国の防災庁誘致により、災害対応力を強化
- ・ 国際防災都市に向け、専門家による政策アドバイザーハイツを設置

◆ 防災減災に向けたハード・ソフトの整備

- ・ 地域ごとの水害リスクに応じて、排水路等の維持管理や整備を集中的に実施（5年程度）し、災害に強いまちづくりを実現
- ・ 道路や橋梁など、老朽化したインフラの整備等を計画的に進め、安全な暮らしを守る
- ・ 上・下水管の耐震化等を計画的に進めるとともに、浄水場水系間のバックアップ強化や雨水ポンプ場の機能強化などにより、災害に強い上・下水道システムを構築
- ・ 河川の水位をAIで予測し、適切な避難情報の発令や迅速な災害対応が可能に

◆ 防災意識の醸成

- ・ 総合防災訓練やデジタル技術を活用した防災教育の実施などにより、防災意識を醸成
- ・ 避難行動要支援者やその支援者のサポート活動を支援

◆ 緊急時の備え

- ・ 避難所指定体育館（小中学校）へのエアコン設置やエアコン付き防災テントを配備し、高齢者や子どもも安心して過ごせる環境を整備
- ・ 避難困難地域解消に向け、防災拠点施設の整備とアクセス道路を改善
- ・ 食料や水、防災用品を地域ごとに備蓄し、災害時に迅速に対応できる体制を確立

◆ 気候変動への対応

- ・ エアコン購入補助に加え、IOTを活用した見守りも実施し、高齢者の熱中症リスクを軽減
- ・ 中小企業の脱炭素経営のチャレンジを支援し、地域全体で持続可能な社会を実現
- ・ クマ等の野生動物による被害防止に向け、IOTを活用した生息状況の把握や、関係機関と連携した捕獲体制を強化
- ・ 森林経営管理制度をはじめとする森林整備により、防災・環境保全を両立

[02 安心して暮らせるまちづくり]

医療や福祉、教育、子育て、交通など、生活の基盤がしっかりと整い、市民が互いに支え合い、多様な支援を必要とする人も心豊かに暮らせるまち

◆ 医療・福祉・介護の充実

- 医師100人増を目指すに医学生への修学資金の貸与に加え、看護師等のコメディカル人財や介護人財の確保・育成を推進
- 中山間地域の医療提供体制の充実に向け、巡回診療やオンライン診療を実施

◆ 常日頃から顔の見える関係づくり

- 自治会活動やボランティア活動への支援により、住民同士が助け合える地域づくりを推進
- 住民同士の支え合いや、包括的な支援体制の構築により、誰もが安心して生活できる地域社会を実現

◆ 地域交通の強化

- 公共交通空白地域が広がる中山間地域等における移動手段の確保
- 市街地及びその周辺部の公共交通不便地域における域内移動手段構築に向けた取組みの推進

◆ 心や学びのサポート

- いじめ対応支援チームの設置や、スクールカウンセラーの配置充実により、子どもが安心して学べる学校づくりを推進
- 医療的ケア児や発達障がい児に係る支援体制の強化（医療的ケア児等コーディネーターの配置、受け入れ体制の充実、特別支援教育ソフトの導入）
- 5歳児健診の実施により、発達障がいなど心身の異常を早期発見
- ヤングケアラーの調査対象拡大により、早期発見・早期支援を推進

◆ 子どもの生活・教育基盤づくり

- 公立小中学校給食費の完全無償化による経済格差を解消
- 保育所、幼稚園での学習・文化・自然体験の機会提供により、好奇心や思考力・表現力を醸成
- 新たな学校給食共同調理場の整備と併せ、長期休業期間における子どもへの食事提供などの新たなサービスの検討

[03 豊かに暮らせるまちづくり]

挑戦と交流が新たな価値を生み出し、ポジティブな未来志向の機運に溢れ、
人と地域の交流や文化・スポーツが盛んで、学び・働き・楽しむ喜びに満ちたまち

◆ 地域経済の活性化

- 未来を支え投資を呼び込む戦略的な企業誘致の推進
- 事業承継マッチング、企業のDX支援やスタートアップ支援により、産業イノベーションを促進
- 地域企業の人財確保の強化や産業界が主体となったデジタル技術の活用、脱炭素などに挑戦できる多様な人づくりを支援

◆ 働く場の創出

- 本社機能移転促進やオフィス系企業の立地支援により多様な雇用を創出
- 遊休資産等の地域資源を最大限に活用し企業立地を推進
- 農業・林業・水産業それぞれの分野で、担い手の確保・育成の推進

◆ 地域資源を生かした稼げるまちの実現

- 産業遺産など観光資源の発掘・磨き上げにより、交流人口を拡大
- 湯本温泉街の活性化により、賑わいを創出
- インバウンド誘客促進により、国際的な交流も促進
- ナショナルサイクルルートの指定に向け、サイクルツーリズムを推進

◆ 新たな都市魅力の向上

- いわきFC新スタジアムを軸とした、新たなチャレンジを生み出すまちづくり
- スマートタウンモデル事業の推進など、ICTを活用した安全で快適なまちづくりを推進
- 常磐地区市街地再生整備やいわき駅北口の土地利用検討により、新たな都市機能を付加

◆ 若者・子育て世帯の支援

- 地域資源を活用したお試し移住施策により、移住・定住を促進
- 産前・産後ヘルパーの派遣対象を拡大し、子育ての不安を解消
- 体外受精等の遠方通院補助などにより、妊娠・出産を支援
- インクルーシブ広場（多様な利用者に配慮した包括的な広場）など、だれもが集い、楽しめる場の整備

[「人づくり日本一」の実現]

「国際防災都市いわき」を支える様々な分野において、人づくりを進め、一人ひとりの力を最大限に發揮できる社会をつくり、持続可能なまちづくりを推進

◆ 未来を見据えた教育の構築

- ・ 未来を見据え、**これからの学びのあり方を示す教育大綱の検討**
- ・ 子どもたちの可能性を育むため、**学びの環境を再構築**
- ・ **地域の魅力を生かした義務教育学校制度の導入**など、子どもたちが自分らしく学べる学校づくりを推進

◆ 学力向上の推進

- ・ **効果的な学力向上の取組みや授業の共有**により、「主体的・対話的な深い学び」を一層推進
- ・ 中学進学時の不安解消に向け、**小中学校の連携強化を推進**
- ・ 児童生徒の学習意欲を高めるため**放課後学習への支援を拡充**
- ・ 特別支援教育ソフトなどを活用し、こども一人ひとりの個性にあわせた教育を提供
- ・ 県学力向上支援アドバイザーとの連携

◆ キャリア教育の推進

- ・ 「いわきアカデミア推進協議会」により、**人財育成プログラムを提供**
- ・ **首都圏大学生向け有償インターンシップの実施**により、実践的学びを促進
- ・ e-kagaku国際科学教育協会の**STEAM教育カリキュラム支援**により、**将来人財を育成**

◆ 多文化共生によるグローバル人財育成

- ・ 「CIFALジャパン国際研修センター」やF-REIと連携した国際防災人財の育成・研修機能の展開
- ・ **海外大学との交流支援や、模擬国連の開催**などにより、グローバル人財を育成
- ・ **企業ニーズを踏まえた外国人財の受入や、日本語学習支援**により、地域の多文化共生を推進

市民の皆様、一人ひとりの笑顔を大切にしていきたい

広報「いわき」より抜粋

課題を魅力に変え、温かいまちへ



酒井 晴加さん
10代/女性



佐藤 桃香さん
20代/女性/若手起業家

若い人がチャレンジしやすいまちへ

障がいがあつても、当たり前に働くまちへ



高村 大輔さん
30代/男性/会社員



篠原 清美さん
70代/男性/民生・児童委員

高齢者の孤立を防ぎ、安心なまちへ

[31万人のまちづくりビジョン策定プロジェクト]

市制施行60周年を節目に、市の未来を担う若者たちと、31万人の市民一人ひとりの声に耳を傾け、
100年目のいわきを見据えた新たなビジョンを市民の皆様とともに描きます。

わたしの声で、旗を編む

あなたが今、一番大切にしている言葉はなんですか？



中期戦略の策定

未来ビジョンの実現に向け、戦略的に事業を進めるため**中期戦略を策定**

地域自治のあり方

地域の実情に応じた、**持続可能な地域自治システム**を検討

地域人財の活用

ボランティアやシニア世代の活用、企業、団体の地域貢献マッチングなど、**地域人財の活用**を検討

実現に向けて

未来ビジョン

100年目も、かわらず、市民の皆様の笑顔が輝くまちづくりを実現します。

[組織統治(ガバナンス)の強化]

共創のまちづくりの実現のため、これまでの構造改革の取組みをさらに推進するとともに、
市民の皆様と市が互いを信頼しあえるまちを目指し、
人づくり・組織づくり・仕組みづくりを進め、組織統治(ガバナンス)を強化

人づくり

- ・職員の更なる倫理意識の醸成
(公務員倫理に関する研修など)
- ・入札・契約事務に関する職員の規範意識の醸成
(入札・契約事務に係る職員の行動基準の策定)

組織づくり

- ・組織として課題解決に当たる風通しの良い職場づくり
(不当要求やハラスメント行為に対する対応の周知徹底や研修など)
- ・いじめに関する相談・支援体制の強化
(いじめ対応支援チームの設置)
- ・地区保健福祉センターの環境改善に向けた取組み
(DX推進、専門性の向上、窓口改善など)

仕組みづくり

- ・職員の倫理的な基準やルールの明文化(条例等の制定)
- ・コンプライアンスに関する職員意識調査の実施
(定期的なアンケート調査の実施)
- ・適正な事務執行に向けた内部統制の取組み
(全庁的リスク・個別リスクの整理・共有)
- ・他の模範となる人材の登用
(昇任人事に係る要件の見直し)

市民意見の吸い上げ (しあわせ調査、デジタルプラットフォームを活用した市民意見の募集)
政策の見える化 (骨太の方針の公表、適切な成果指標を設定、事業進捗の共有)